

事務事業	10002	育児支援教室開催事業	担当課 課長	健康課 作本 和美	担当係 担当者	健康管理係 瀬田 亮子
計後 画期 体計 系画	施策	05 子どもを安心して生み育てることができるまちをつくる	予 算 科 目	会 計 項 目	1 一般会計	
				款	4 衛生費	
				目	1 保健衛生費	
				3 母子衛生費		
	140 子育てに関する情報提供や相談・交流できる環境をつくる		基本事業			
法令根拠条例等			個別計画	健康増進計画「健康しめ21」		
実施期間	<input type="checkbox"/> 28年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返		H12 年度より開始	<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度～ 年度

【事業の目的・内容】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください) 0歳児親子教室:初めてのお子さんを持つ両親を対象に、誕生月を3ヶ月まとめて1グループとし、年間4グループ実施。内容は、①ベビーマッサージ、②絵本の読み聞かせ・育児サークルとの交流会、③子育ての講話。 子育て講話の回は0歳児のグループを2グループ+マタニティ教室と合同で実施し、教室参加を通して交流会を行い、ママ友達をつくってもらう機会としている。	<input type="checkbox"/> 2次評価会議に提出します (左にチェックを入れる)
【業務内容(町職員の仕事内容)】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください) 年度末に教室の企画・立案、各講師の手配。 教室開催時に司会や事務処理、育児相談を行う。 対象者に通知し、電話申し込み制。	主 な 事 業 費 の 内 訳
	講師謝礼金 112 千円
	消耗品費 66 千円
	千円
	千円
	千円

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動) 28年度に行った主な活動(※箇条書きで記入) ・事業の計画・講師の手配。 ・対象者へ通知し電話申し込み受付。 ・事業の運営、教室内の育児相談等 ・事前・事後アンケートを行い、内容の評価	⇒	④ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	指標数値					
			名称	単位	27年度	28年度	29年度	
		ア	実施回数(延べ)	回	12	10	10 (見込)	
		イ	アンケート実施回数	回	8	8	8 (見込)	
		ウ	アンケート実施人数	人	121	167	170 (見込)	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) 第1子とその保護者	⇒	⑤ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	指標数値					
			名称	単位	27年度	28年度	29年度	
		ア	第1子を持つ母親数	人	231	203	200 (見込)	
		イ					(見込)	
		ウ				(見込)		
事務事業の目的 ③ 意図(この事業で、対象をどのような状態にしたいのか) 同年代の子どもを子育て中の母親や先輩ママとの交流を行うことで、子育ての相談相手をつくり、安心して楽しんで子育てができるようにつなげる。また、父親にも参加をしていただき、子育てへの協力につなげる。	⇒	⑥ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	指標数値					
			名称	単位	27年度	28年度	29年度	
		ア	教室参加によりママ友達ができた参加者の割合	%	目標	90.0	90.0	70.0
		実績			63.6	67.3		
		イ	父親の教室参加者数	人	目標	32	25	40
		実績			19	34		
		ウ	参加者数(実人数)	人	目標	120	110	140
		実績			111	133		
エ			目標					
オ			目標					
			実績					

(2) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(千円)		27年度 (決算値)	28年度 (当初予算)	28年度 (決算値)	29年度 (当初予算)	30年度 (計画)	31年度 (計画)	
	経費	国・県支出金、地方債等							
		受益者負担等	1						
		一般財源	171	188	178	188	188	188	
		合計(A)	172	188	178	188	188	188	
		(内臨時・嘱託職員人件費)							
	正職員人件費[按分](B)		1,549	875	941	2,034			
トータルコスト(A)+(B)		1,721	1,063	1,119	2,222	188	188		

# 事務事業評価表(事業実施年度:平成28年度)

## (3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を開始したきっかけは何ですか?いつ頃どんな経緯で開始されましたか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化していますか?	③ 事務事業に対して関係者からどんな意見や要望が寄せられていますか?(誰からの意見か明記)
H12年度より、青年育成事業での県からの補助事業で開始。その後、人口の増加、核家族の増加に伴い、第1子を対象に実施してきている。	近年核家族の増加や実家が遠い家族が増加しており、育児不安を持つ人が増えている。また、近年町内でのマンションの建設に伴い、結婚や妊娠を機に転入して来られる方が増えている。その中で、はじめて育児をしている方は特に育児不安を持ちやすいと考えられる。	参加された方に実施したアンケートより、同じ月齢のお子さんを見たこと、子育て中の方と面識になったこと等が良かったという声が多数上がっている。教室に参加して良かった、またこのような機会があれば参加したいとの意見が寄せられている。また、父親へのアンケートから父親同士で話ができよかったという声も上がっている。

## (4) 昨年度の評価結果の取り組み状況調べ

昨年度の事務事業評価結果		28年度の取り組み状況と今後の方針	
事業の方向性	平成28年度の取り組み概要及び期待される効果	実施状況	実施できなかった理由と今後の方針
<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 目的の見直し <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善  <input type="checkbox"/> 事務事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	父親を含め教室の参加率と、1人が継続して参加する回数を増やす。H28年度から4カ月健診時に、第1子には0歳児親子教室の案内を積極的にしていく。また、教室参加でママ友が出来た参加者の割合が増加するよう、教室の中で支援をしていく。	<input checked="" type="checkbox"/> 記述どおり実施できた (コメント必要ありません)  <input type="checkbox"/> 一部実施できた(理由→) <input type="checkbox"/> 実施できなかった(理由→)	

## 2 評価(SEE)及び全体総括の部 \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

### (1) 評価

	評価の理由
<b>目的妥当性評価</b> ① 上位施策への貢献度は大きいですか? ※総合計画を参照してください <input checked="" type="checkbox"/> 貢献度大きい(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度小さい(理由→) ② 税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか? (事業の目的は、総合計画の町の役割や基本方針に合っていますか?) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である(理由→) <input type="checkbox"/> 妥当性が低い(理由→)	第1子とその保護者を対象にしており、育児の様々な不安が多い方や、他のお子さんや家庭と関わる機会が少ない方が多い。その為、教室に参加し他のお子さんや家庭と交流できることは育児を行う上で重要なことである。また、保健師等スタッフに気軽に心配事を相談できることは子育てを安心して行うことにつながっている。  初めて子育てをする方に限定して行うことで育児不安解消やママ友づくりを有効的に行うことができる。将来の町を担う子どもたちを安心して育成することにもつながるため、目的も妥当と考える。
<b>有効性評価</b> ③ 成果がこれ以上向上する余地(可能性)はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地がある(理由→) <input type="checkbox"/> 成果向上余地がない(理由→)	父親を含め教室の参加率と、1人が継続して参加できる回数を増やす。また、教室参加により、ママ友が出来た参加者の割合が増加するよう、教室の中で支援をしていく。
<b>評価</b> ④ 廃止・休止した場合、成果への影響はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(理由→) <input type="checkbox"/> 影響なし(理由→)	初めて育児を経験される方や、近くに知り合いがいない方など、同じ月齢の子供を持つ親同士の交流や、先輩ママとの交流、講師や保健師によるアドバイスが受けられ、育児不安を解消できる教室となっている。
<b>効率性評価</b> ⑤ 現状の成果を落とさずにコスト(予算+事務従事時間)を削減する新たな方法はありますか?(広域連携や民間委託等の導入など) <input type="checkbox"/> ある(具体的な内容→) <input checked="" type="checkbox"/> ない(理由→)	今年度、子育て講話を2グループ合同開催することで年4回から2回に回数を減らした。講師代のコストを削減したが、参加者は増加しており、費用対効果の面では有効だったと考える。これ以上の合同開催は難しいと考える。

### (2) 28年度を振り返って(全体総括・反省点)

参加率が昨年度は39.8%だったが、今年度は48.7%になった。これは離乳食教室や4カ月児健診で対象者に声かけを積極的にしているのも要因のひとつと考え、効果がみられたため、次年度も継続して実施したいと思う。また、今年度は日曜日に開催している回以外にも父親や祖父母と一緒に参加される方がおり、父親の参加率も向上した。また、日曜日の開催の回では父親のみの交流会も実施した。参加後のアンケートから、父親同士で話ができよかったという声もあがっていたので、次年度は父親も参加してよかったと思えるような教室運営を実施していきたい。
---

## 3 今後の方向性(29年度以降の計画と30年度予算への反映)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可)	(2) 平成29年度以降に取り組む内容と期待される効果
<input type="checkbox"/> 廃止・休止(理由→) <input type="checkbox"/> 目的の見直し(内容→) <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上)内容→ <input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減)内容→  <input type="checkbox"/> 事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	回数・内容はこのままを維持。日曜日に開催する回については、父親の交流会時にテーマを設けたり、ママ友が出来た参加者の割合が増加するように話しやすい環境づくりを行う。